


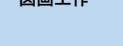




各教科等チェックシート

| | |
|--------|-------|
| 学部・学年 | 氏 名 |
| 小学部・〇年 | 〇〇 〇〇 |

小学部・小学校版

| 教科等 | 内 容 | 知的障害がある | | | 知的障害がない | | | | | | 備考 | | | |
|--|---------------------------------------|----------|---|---|----------|---|---|---|---|---|----------|---|--|--|
| | | 小学部 (段階) | | | 小学校 (学年) | | | | | | 具体的な指導内容 | 指導場面 教科・単元等 | | |
| | | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | | |
| 生活 (特別支援学校) 生活科  | ア 基本的な生活習慣 | | | ● | | | | | | | | | 日課や予定の確認、荷物整理、着替え、係活動、あいさつ、個別課題学習 日常生活の指導、自立活動、生活単元学習 | |
| | イ 安全 | | ● | | | | | | | | | | | |
| | ウ 日課・予定 | | ● | | | | | | | | | | | |
| | エ 遊び | | ● | | | | | | | | | | | |
| | オ 人との関わり | | ● | | | | | | | | | | | |
| | カ 役割 | | ● | | | | | | | | | | | |
| | キ 手伝い・仕事 | | ● | | | | | | | | | | | |
| | ク 金銭の扱い | ● | | | | | | | | | | | | |
| | ケ きまり | ● | | | | | | | | | | | | |
| | コ 社会の仕組みと公共施設 | ● | | | | | | | | | | | | |
| カ 知識及び技能 | | | ● | | | | | | | | | あいさつ、朝の会・帰りの会の係活動、集会・行事での発表練習 自立活動、生活単元学習、特別活動 | | |
| A 聞くこと・話すこと | | ● | | | | | | | | | | | | |
| B 書くこと | ● | | | | | | | | | | | | | |
| C 読むこと | ● | | | | | | | | | | | | | |
| 社会 (小学校3～6年) | | | | | | | | | | | | | | |
| 算数  | A 数と計算 | ● | | | | | | | | | | 20までの数唱、形の分別、色の弁別、大きさの分別 自立活動、生活単元学習 | | |
| | B 図形 | | ● | | | | | | | | | | | |
| | C 測定 | ● | | | | | | | | | | | | |
| | D データの活用 (数学的活動) | ● | | | | | | | | | | | | |
| 理科 (小学校3～6年) | A 物質・エネルギー | | | | | | | | | | | | | |
| B 生命・地球 | | | | | | | | | | | | | | |
| 生活 (小学校1・2年) | | | | | | | | | | | | | | |
| 音楽  | A 表現 | | | | | | | | | | | 歌、楽器、リズム、ダンス 自立活動、生活単元学習、音楽、体育 | | |
| | B 鑑賞 | ● | | | | | | | | | | | | |
| 図画工作  | A 表現 | ● | | | | | | | | | | 作品制作、学級の掲示物制作 生活単元学習、図工 | | |
| | B 鑑賞 | | ● | | | | | | | | | | | |
| 家庭 (小学校5・6年) | A 家族・家庭生活 | | | | | | | | | | | | | |
| | B 衣食住の生活 | | | | | | | | | | | | | |
| | C 消費生活・環境 | | | | | | | | | | | | | |
| 体育  | A 体づくり運動遊び (小2と3段階 体づくり運動) | | ● | | | | | | | | | ストレッチ (基礎運動)、サーキット運動、長・短距離走、ダンス、水泳、ブラインドサッカー等 自立活動、生活単元学習、体育 | | |
| | B 器械・器具を使つての遊び (2・3段階 器械・器具を使つての運動) | | ● | | | | | | | | | | | |
| | C 走・跳の運動遊び (2・3段階 走・跳の運動) | | ● | | | | | | | | | | | |
| | D 水遊び (2・3段階 水の中の運動) | ● | | | | | | | | | | | | |
| | E ボール遊び (2・3段階 ボールを使った運動やゲーム、小学校 ゲーム) | | ● | | | | | | | | | | | |
| | F 表現遊び (2・3段階 表現運動、小学校 表現リズム遊び) | | ● | | | | | | | | | | | |
| | G 保健 *小学校 項目なし | | | | | | | | | | | | | |
| 外国語 外国  | 知識及び技能 | | | | | | | | | | | 生活単元学習 | | |
| | 思考力・判断力・表現力等 | | | | | | | | | | | | | |
| 外国語活動 ※(1) | | ● | | | | | | | | | | | | |
| 特別の教科 道徳 ※(2) | | | | | | | | ● | | | | | | |
| 総合的な学習の時間 | | | | | | | | | | | | | | |
| 特別活動 | | | | | | | | | ● | | | | | |

記載者より
 段階の選定に迷う場合は●ではなく△などを入力し、区別できるとよい。
 開発者より
 △、○などは手動で入力できます。状況に応じて工夫してください。

記載者より
 教育課程に国語、算数はないが、各教科の実態を捉えてチェックを入れた。「指導場面」に書かれているとおり、各教科等を合わせた指導などで扱っている。

※(1) 「外国語活動」：知的特別支援学校の小学部において、必要に応じて設けることができる。
 ※(2) 「特別の教科 道徳」：小学校に準ずる(原則同一、他配慮事項あり。)

自立活動フローシート

学部・学年 小学部・〇年 氏名 ○○ ○○

自立活動フローシートの作成が後期の個別の指導計画の作成につながった例です。

発達の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさについて情報収集

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|---|---|---|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 睡眠が安定していない。 気圧の影響で、体調が優れないことがある。 | <ul style="list-style-type: none"> 見通しが持てなかったり、睡眠不足・空腹になったりするとパニックになることが多く、自傷行為や他害をすることがある。 気持ちが高まると、自らの行動を制御することが難しく、泣きながら荒っぽい行動をとる。 初めてやることや、新しいことが苦手。 | <ul style="list-style-type: none"> 教師に対して、「一緒にきてほしい」「離れてほしい」ことを、引っ張る・押す等で表現してしまう。 友達に自分から関わりを求めることが難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 視力は0.07程度ではないかと言われている。興味がある物があると、視距約5cm程度を目に近づけて見たり、触ったりして確認している。保護眼鏡を使用している。(A) 校内の移動の際は、視覚活用をして感覚で歩いていることが多い。壁を伝って歩いたりランドマークを触って確認したりすることが定着していない。 教室の配置が変わると、これまでの記憶が抜けず、しばらくの間は間違えてしまう。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な運動・動作を習得しており、教師からの言葉による指示に従って体を動かすことができる。 突然ジャンプしたり回ったりすることがある。 | <ul style="list-style-type: none"> 問いに対し、そのままの言葉を返すことが多く、自分の意思を正しく返答することが少ない。 音声言語による簡単な指示を理解することができる。 |

(1) 自立活動の内容を学習指導要領で確認したところ、本児の実態に関する新たな視点に気付いた。(下線部(A))

いくつかの指導目標の中で優先する目標として

3年後にめざす姿

- 自分の気持ちをコントロールしながら、落ち着いて活動に取り組める。
- 自分の気持ちや要求を、適切に相手に伝えることができる。

長期目標(年間)

- 見通しをもちながら日課に沿って教師と一緒に行動することができる。
- 相手との簡単なやりとりをとおして、自分の気持ちや要求を適切に相手に伝えることができる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

| | 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--------|-------------------|-----------------------------|--------------|----------------------|---------------------|--------------------|
| 選定した項目 | ①生活のリズムや生活習慣の形成 | ①情緒の安定 | ①他者とのかかわりの基礎 | ①保有する感覚の活用 | ①姿勢と運動・動作の基本技能 | ①コミュニケーションの基礎的能力 |
| | ②病気の状態の理解と生活管理 | ②状況の理解と変化への対応 | ②他者の意図や感情の理解 | ②感覚や認知の特性への対応 | ②姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 | ②言語の受容と表出 |
| | ③身体各部の状態の理解と養護 | ③障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | ③自己の理解と行動の調整 | ③感覚の補助及び代行手段の活用 | ③日常生活に必要な基本動作 | ③言語の形成と活用 |
| | ④障害の特性の理解と生活環境の調整 | | ④集団への参加の基礎 | ④感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握 | ④身体の移動能力 | ④コミュニケーション手段の選択と活用 |
| | ⑤健康状態の維持・改善 | | | ⑤認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 | ⑤作業に必要な動作と円滑な遂行 | ⑤状況に応じたコミュニケーション |

(2) 下線部(A)をもとに、下線部(B)の内容を追加した。(実態の捉え直しが具体的な指導内容の見直しにつながった。)

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

| | | | |
|----------|--|---|---|
| 具体的な指導内容 | パニックになったり気持ちが不安定になったりしたときには、その場を一時的に離れ、肩の力を抜いたり、体を動かしたりして発散できるようにする。 | 写真カードや絵カードを使用し、学習や活動に見通しをもてるようにする。絵カード等に教材がより見やすいように、書見台を使用したり、教材と背景の色がはっきりした物を使用したりする。(B)触察して物の質感や形等の特徴をより理解できるように、確認するように促したり、教師と一緒に言葉で表現したりする。 | 好きなことや興味のあることを教師と一緒にいながら、要求などに関して、教師の話す言葉や身振りに触れたり、模倣したりする場面を意図的に設ける。 |
|----------|--|---|---|

| 指導場面(各教科・単元名) | 教科等 | 単元名等 | 教科等 | 単元名等 | 教科等 | 単元名等 |
|---------------|-----|-----------|-----|---------------|-----|---------|
| 自立 | 自立 | 白杖を持って歩こう | 自立 | 課題学習(個別学習) | 体育 | 機械器具運動 |
| | 自立 | 和太鼓をしよう | 音楽 | 歌・楽器「いろんな木の実」 | 生単 | 千葉駅に行こう |

※ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)より抜粋及び参照。

令和元年度 小学部 後期 個別の指導計画

| | | | | | |
|-------|--|----|--|-----|--|
| 学年・学級 | | 氏名 | | 担任名 | |
|-------|--|----|--|-----|--|

| | |
|------|---|
| 年間目標 | <p>○<u>写真カードを見て身近な日課を知り、見通しをもちながら日課に沿って教師と一緒に行動することができる。(C)</u></p> <p>○相手との簡単なやりとりをとおして、自分の気持ちや要求を適切に相手に伝える経験を増やす。</p> <p>○校内の行き慣れた教室に一人で行く経験を増やす。</p> |
|------|---|

| | 目 標 | 手立て | 評 価 |
|---------|--|---|--|
| 日常生活の指導 | <p>○教師の少ない言葉掛けで、着替えをすることができる。</p> <p>○保健室まで一人で行き、健康観察簿を渡すことができる。</p> <p>○教室移動では、一人で自分の教室に戻ることができる。</p> | <p>○毎日決まった順序で衣服の着替えを行う。</p> <p>○教室を出る前に、保健室でのやりとりの練習を行う。</p> <p>○教室のランドマークの色を伝える。</p> <p>○一人で移動できたときには拍手をして褒める。</p> | <p>(3) 下線部 (A)、(B) とのつながりがみられる。(自立活動フローシートの活用が後期の個別の指導計画の作成に活かされている。)</p> |
| 生活単元学習 | <p>< 駅見学に行こう ></p> <p>○見通しをもちながら、活動に参加することができる。</p> | <p>○<u>見通しがもちやすいよう、活動の内容の流れを一定にし、授業の初めに写真カードを見てから活動に取り組む。(D)</u></p> | <p>(4) 年間目標 (C) を達成させるために、指導の手立てとして下線部 (D) を設定した。(下記、「自立活動」の下線部 (E) も同様)</p> |
| 音楽 | <p>○友達と一緒に歌う場面を増やすことができる。</p> <p>○旋律を弾きながら和音をつけて鍵盤楽器を弾くことができる。</p> | <p>○友達とペアで歌う機会を設けたり、マイクを使用したりする。</p> <p>○「ドミソ」「シレソ」など簡単な三和音を設定し、左手で弾くようにする。</p> | |
| 図画工作 | <p>○色づかいや材料の触感を楽しみながら、道具を使って作品づくりに取り組むことができる。</p> | <p>○参考作品や道具を見たり触ったりして、確認する時間を十分に設けるようにする。</p> | |
| 体育 | <p>○リトミック運動では、音楽に合わせた決められた動きを教員の言葉掛けを聞きながら一緒に行うことができる。</p> | <p>○毎回の授業でリトミック運動を行い、音楽とともに決められた動きの具体的な言葉掛け等を行うようにする。</p> | |

| | | | |
|------|---|--|--|
| 自立活動 | <p>○伝えたい相手の名前を呼ぶことができる。</p> <p>○重さや太さの弁別活動に取り組むことができる。</p> <p>○白杖を操作しながら点字ブロックの上を歩き、目的地まで安全に歩くことができる。</p> | <p>○伝える友達や教師の写真カードを見て、名前を言ってから話すようにする。(E)</p> <p>○自信がないときには、伝える人の名前の出だしの言葉を伝える。</p> <p>○本人が好きなクイズ形式で出題する。</p> <p>○見通しがもてるように、目的地や活動内容について簡潔に伝える。</p> <p>○適切な白杖操作や行動ができたときは、その場で伝えるようにする。</p> | |
| 道徳 | <p>○廊下等で友達や教師に、挨拶を返すことができる。</p> | <p>○廊下等で友達や教師とすれ違った時に、肩を軽くたたいて、挨拶を返すタイミングを知らせる。</p> | |

1 単元名 よく見て触って、見分けよう

2 単元設定の理由

本学習は、特別支援学校学習指導要領解説：自立活動編の自立活動6区分27項目の中から、「2 心理的な安定 (1)情緒の安定に関すること」、「4 環境の把握 (1)保有する感覚の活用に関すること」、及び「6 コミュニケーション (1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること」を主な指導内容として取り組んでいる。

本児童は、小学部〇年の女兒であり、視覚障害と知的障害を併せ有した重複学級に在籍している。週に8時間ある自立活動のうち、5時間は児童の実態に合わせた個別の課題学習を行っている。〇〇があるため、常に教室内は遮光カーテンをしめている。

本児童の見え方は、光覚程度であり、「色」の識別が可能な程度とされていた。そのため、弁別学習は、具体物や立体の図形を使用し行ってきた。しかし、写真カードを使用し日課の確認を行ったところ、(眼球が白濁しているということもあり、視界がぼやけたり、白く濁って見えていたりする可能性が考えられるが)、目から約5cmの距離まで近づければ、写真カードや絵カードの見分けができることがわかった。写真カードの活用後は、教室に入室する際ランドマークをよく見て、色を言ってから入室したり、着替えの際に衣服の色を伝え、正しく選択したりすることができることも多く、視覚活用をして生活をする様子が多く見られるようになった。また、写真カードを使用し日課の確認をするようにしたことで、視覚的に見通しが持てるようになり、情緒の安定面にも良好な効果が見られている。そこで、今後は視覚をこれまでよりも活用できる学習を取り入れ、写真カード等の平面の弁別もできるようになってほしいと考える。具体物から写真カードへ移行していくことにより、より視覚を活用して生活して欲しいと考える。ただし、本児童は、自身が興味あるものに対して、手を伸ばして探すという行動をとることが多く、触覚を活用して身の回りの環境を探索しようとする様子も見られる。これまで、具体物を使用した弁別や点図を使用した点図たどり等で、触察の学習をしてきていることも踏まえ、「点字学習指導の手引」の「第3章 点字学習の基礎」のうち「第2節 触覚による弁別学習」や「第3節 図形の弁別と構成・分解の学習」を中心に、「第4章 点字読解の学習」のうち「第1節 両手読みの動作の制御と点字読解の枠組みの学習」の内容にも触れながら点字や点図を触る学習も併せて進めている。

コミュニケーション面においては、「おはようございます」「さようなら」等の挨拶や、「〇〇先生、〇〇お願いします。」等の依頼も、自ら発することが増えてきた。やり取りの場面では、日常の簡単な指示に対しては理解することができるが、受け応えはオウム返しになることが多く、やり取りが成立しない場面が多い。情緒面においては、睡眠リズムが安定していない時や気圧の影響で体調が優れない時、空腹時などにパニックを起こすことがある。パニック時には、自らの行動を制御する

のが難しいため、引っかいたり噛んだり、自傷行為や他害をしてしまうことがある。パニックになったり、気持ちが不安定になったりしたときには、その場を一時的に離れ、肩の力を抜いたり、身体を動かしたりして心理的安定を図るように配慮する。

本時は、色のマッチング、立体の弁別、平面の弁別(写真カード等)、型はめ、点図たどり・行たどり、を行う。色のマッチング、弁別は、視覚活用を高めるねらいがある。型はめ、点図は、空間関係を知覚する力を高めるとともに、指や手の操作性を高めることをねらいたい。また、すべての学習を通して「ください」「どうぞ」などの簡単なやり取りをする場面を設け、言葉を使ったコミュニケーションを促していきたい。

本学習をとおして、視覚を活用することで身の回りから情報を得ることの気づきにつなげたいと考えている。

3 単元の目標

- 視覚や触覚を活用しながら、課題学習に取り組むことができる。
- 教師とのやり取りをしながら活動することができる。

4 指導計画

| 学習活動 | 6月 | 7月 | 8・9月 |
|-------------|----|----|------|
| 色のマッチング | | | → |
| 立体の分別 | | | → |
| 点図たどり | | | → |
| 行たどり | | | → |
| 型はめ | | | → |
| 写真カード | | | → |
| 図形カード | | | → |
| 色と文字(曜日)カード | | | |

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- 教材をよく見たり触ったりしながら課題学習に集中して取り組むことができる。
- 教師と「ください」「どうぞ」などのやりとりをしながら活動することができる。

(2) 児童の様子と目標と手だて

| 学習内容 | 児童の様子 | 目標 | 手だて |
|---------|--|--|--|
| 色のマッチング | <ul style="list-style-type: none"> ・スプーンとコップに顔を近づけて、色をよく見ている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・渡されたスプーンと同じ色のコップに、スプーンを入れることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が見えやすいよう、黒いトレイの上にコップを置くようにする。 |
| 立体の分別 | <ul style="list-style-type: none"> ・3色の、色々な「まる」「さんかく」「しかく」の形を見たり触ったりすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3色の丸や正方形、正三角形の板を見たり触ったりして、自分から色と形の名称を答えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が持ちやすい大きさの板を用意する。 ・見えやすいよう黒いトレイの上に形の板を置くようにする。 |
| 点図たどり | <ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉かけに合わせて、出発点の赤い丸シールの上に指を置き、点図をたどれるようになってきた。 ・人差し指でたどるのは、まだ難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・点図の出発点から到着点まで両手を使いながら、人差し指が外れずにスムーズにたどることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分で点図をたどることができるよう、出発点に赤、到着点に青の丸シールを貼り、視覚的にも触覚的にもわかりやすくする。 ・人差し指でたどれるように、前から指を補助するようにする。 |
| 行たどり | <ul style="list-style-type: none"> ・右手を使って、行を左から右へたどれるようになってきた。 ・人差し指でたどるのは、まだ難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・両手を使いながら点字の行を左から右へスムーズにたどることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人差し指でたどれるように、前から指を補助するようにする。 ・左手で次の行に移動することができるよう、行頭に赤い丸シールを貼っておく。 |
| 型はめ | <ul style="list-style-type: none"> ・型の隙間をよく見て確認したり、手で触って確認したりして、積み木をはめる場所を探す姿が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・正方形の型に、長方形や正方形の積み木を隙間なくはめることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・型の背面を黒くして、見えやすくする。 ・書見台を使用し、児童が見やすい高さに型を置くようにする。 |
| 写真カード | <ul style="list-style-type: none"> ・カードをよく見ることができる。 ・日課の活動カードを覚えた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て、先生と友達の名前を正しく答えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・書見台を使用し、児童が見やすい高さに写真カードを置くようにする。 |
| 図形カード | <ul style="list-style-type: none"> ・黒い背景に白い図形が記された図形カードを正しく答えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分から形の名称を答えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・書見台を使用し、児童が見やすい高さに、図形カードを置くようにする。 |

(3) 本時の展開

(45分)

| 時配 | 学習活動と内容 | ・指導・支援上の留意点 ◇評価 ◎視覚障害に配慮した留意事項 | 備考 |
|----|---|--|--|
| 2 | 1 挨拶をする。 「気をつけ」「礼」 「始めます」 | ◎○○があるため、遮光カーテンをしめておく。 ・児童の姿勢や、机と椅子、足台の位置を確認する。 ・パニックになったり、気持ちが不安定になったりしたときには、その場を一時的に離れ、肩の力を抜いたり、身体を動かしたりすることができるように配慮する。 | ・足台 |
| 3 | 2 本時の学習内容を確認する。 | ・「号令をお願いします」と毎時決まった言葉を掛け、児童が号令をかけることで、授業が始まることを意識できるようにする。 | |
| 3 | 3 それぞれの課題学習に取り組む。 | ・児童が見通しをもちやすいよう、本時学習する7つの課題の内容を伝える時には、それぞれの課題で用いる教材を提示しながら簡潔に伝える。 ◇教師と「ください」「どうぞ」などのやりとりをしながら活動に取り組むことができたか。 | ・コップ ・板1枚 ・点図の紙 ・行たどりの紙 ・積み木 ・写真カード ・図形カード |
| 5 | ① 色のマッチング ・渡されたスプーンと同じ色のコップに、スプーンを入れる。 | ◎コップを黒いトレイの上に離して並べる。 ・児童が異なる色のコップにスプーンを入れた際は、スプーンとコップを見て名称を確認し、「同じ色に入れてください」と再度伝える。 ◇渡されたスプーンと同じ色のコップに、スプーンを入れることができたか。 | ・黒いトレイ ・色つきコップ ・色つきスプーン |
| 10 | 課題の選択 ・行たどりと線たどりのどち | ・選択しやすくするために、行たどりの紙と | ・点図の紙 |

| | | | |
|---|--|---|--|
| 5 | <p>らを先に行うか選択する。</p> <p>② 行たどり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・右手で点字を行末までたどり、左手で次の行へ移動する。 <p>③ 線たどり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横、縦、ななめ、曲線などの線をスムーズにたどる。 <p>④立体の弁別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の問いかけを聞いて、正しい板を選んで教師に渡す。 ・次に、色（赤、青、黄）と形を伝え、その条件に合う板を選び、「どうぞ」と言いながら教師に渡す。 | <p>点図の紙を本人の前に提示し、選んで教師に渡すように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人差し指の指先を立てずに指の腹が行に接触している状態でたどるよう言葉を掛ける。 <p>◎左手で次の行に移動することができるよう、行頭に赤い丸シールを貼っておく。</p> <p>◇教師と一緒に、両手を使いながら点字の行を左から右へスムーズにたどることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点図の紙を机の手前の辺に平行になるように置き、児童の体と机が平行になるように姿勢を確認する。 ・「まっすぐ」の基準を作るために、左手の指を出発点に止めて、右手だけを動かし、往復するようにする。 <p>◎児童が自分で点図を触ることができるよう、出発点に赤、到着点に青の丸シールを貼り、視覚的にも触覚的にも分かりやすくしておく。</p> <p>◇横や縦、斜めの点図の出発点から到着点まで、両手を使いながら指がはずれずにスムーズにたどることができたか。</p> <p>◎黒いトレイの上にそれぞれの形の板を置き、見えやすいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色と形を伝えるときには児童が聞いて分かりやすいよう、区切りながらゆっくり伝える。 <p>◎弁別が曖昧なときは左手で基準になる角を押さえ、右手の手指でその角から辺に沿って順に角の数を数えるように導く。</p> <p>◇3色の丸や正三角形、正方形の板を見たり触ったりして、自分から色と形の名称を「〇〇色の～です」と丁寧な言葉遣いで答えることができたか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・行たどりの紙 ・行たどりの紙 ・滑り止めマット1枚 ・点図の紙 ・滑り止めマット1枚 ・黒いトレイ ・丸の板 ・正三角形の板 ・正方形の板 |
|---|--|---|--|

| | | | |
|---|--|--|--|
| 5 | <p>⑤図形カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の問いかけを聞いて、正しいカードを選んで教師に渡す。 | <p>◎カードが見やすいように、黒い紙を貼った書見台にカードを置く。</p> <p>◎図形カードは、黒いカードに図形の厚紙を貼ったものにし、児童が触っても、形が確認できるようにしておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形を伝えるときには児童が聞いて分かりやすいよう、区切りながらゆっくり伝える。 <p>◇丸や正三角形、正方形のカードを見たり触ったりして、正しいカードを選ぶことができたか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・図形カード ・書見台 |
| 5 | <p>⑥型はめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20cm×20cmの正方形の型に、長方形と正方形の積み木を組み合わせて隙間なくはめる。 | <p>◎積み木をどこにおいたのか視覚的に分かりやすくするために、型の背面を黒くしておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が、積み木の置く位置に迷ったときには、「よく見よう」「触って確かめてみよう」等の言葉がけをする。 <p>◇正方形の型に、積み木を隙間なくはめることができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・型 ・積み木 |
| 5 | <p>⑦写真カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の問いかけを聞いて、正しい友達や先生の写真カードを選んで教師に渡す。 | <p>◎書見台を使用し、児童が見やすい高さに図形カードを置くようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇さんのカードをください」と簡潔に設問するようにする。 <p>◇写真をよく見て、正しいカードを選ぶことができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・写真カード ・書見台 |
| 3 | <p>4 本時の学習の振り返りをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、良かった点を簡潔に伝える。 | |
| 2 | <p>5 終わりの挨拶をする。 「気をつけ」「礼」 「終わります」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の姿勢や、机と椅子、足台の位置を確認する。 | |

(4) 評価

○教材をよく見たり触ったりしながら課題学習に集中して取り組むことができたか。

○教師と「ください」「どうぞ」などのやりとりをしながら活動することができたか。

6 備考

(1) 配置図

